

第11号 南部箕蚊屋広域連合

まめ・カフェ通信

～第11回まめ・カフェ開催報告～

令和3年7月15日（木） 18:00～19:30

Cisco Webex Meeting を使用したオンライン形式

参加者 54名（参加者 14名、スタッフ 6名）

（ 医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、理学療法士、
社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士、
認知症地域支援推進員、その他 ）

まめ・カフェとは??

医療や介護、地域に関わる
私たちの仕事って**まめ**でな
ければつとまらない。

「**まめ**なかや? (元気です
か)」と、こまめな声かけ
が関係づくりの第一歩!…
多職種が気軽に集って**まめ**
に話せる場所が欲しい☆と
いう声からできたのが、

まめ・カフェです♪

ミニ講座

- 「認知症初期集中支援チームの概要」
～南部箕蚊屋広域連合における取り組みについて～
南部箕蚊屋広域連合 伯耆地域包括支援センター
保健師 有富 千帆
- 「認知症初期集中支援チームの取り組み」
～訪問看護師の立場から～
南部町訪問看護ステーション
主任看護師 三浦 玲子 さん
- 「認知症初期集中支援を考える」
南部町国民健康保険西伯病院
院長 高田 照男 先生



最初に、伯耆地域包括支援センタ
ーの有富保健師から連合の認知症初
期集中支援チームの構成やチーム員
会議の様子、平成30年度の実施状
況などの取り組みについて説明があ
り、次に、訪問看護師の立場から三
浦看護師に実際の事例を通してチ
ーム員の活動について具体的にお話
していただきました。最後に、チ
ームサポート医の高田先生から、認知
症初期集中支援事業の目的や活動内
容、対象者についての考えや介入時
に留意していること等についてお話
していただきました。

そのあとのグループディスカッシ
ョンでは、参加者間でミニ講座を聞
いての感想や疑問に思っているこ
と、また日頃の認知症の人への支援
について感じていること等を話し、
全体発表を通して情報の共有を行
いました。

終わりに、高田先生は「認知症の
人が幸せに生きることが出来る地
域になるよう、協力していきましょ
う」と話されました。

まめ・カフェの飲みものとお菓子は皆さんからの募金
で準備させていただいております。

今回も、ご協力ありがとうございました。

《参加者の感想》

【 アンケート結果より 】（回収数 45）
まめ・カフェに参加していかがでしたか？

- | | |
|-----------|----|
| 1. 大変良かった | 24 |
| 2. よかった | 18 |
| 3. 普通 | 1 |



- ・認知症初期集中支援チームというものがあることを知らなかったのでよい勉強になった。認知症と診断を受けるのがよいのか、命にかかわらなく生活できるのなら診断を受けなくてもいいのでは？などいろいろな考えさせられた。
- ・認知症初期集中支援チームの存在、活動等を知ることができてよかった。薬剤師の関わり方を考えていくきっかけになった。
- ・専門医の意見を聞くこともでき、「初期集中支援」について理解ができてよかった。専門医への受診も大変なことですが、認知症になり、その方が幸せに暮らせることができるよう考えることが一番なのかと思った。
- ・病院のなかではわからない地域の活動や認知症の方への対応、介入について改めて考える機会を頂いた。
- ・介護支援専門員として関わってからは、何となく相談しにくいというか、どの時点で相談するのか判断に迷う。
- ・まめカフェは毎回参加してよかったと思う。いろんな職種の方と気軽に話せ、聞くことができ、また医師の立場からの考えを聞くことができてよかった。こういう支援チームは心強い。
- ・グループ内でもさまざまな職種があり、話が聞けて参考になった。
- ・認知症の受け入れができない方の支援は難しいと思う。支援チームの介入により支援が少しでもできるようになればよいと思う。
- ・初期集中の成果事例などが聞けるとよかった。医師の参加があり、よい話が聞けた。困ったら相談したいと思った。
- ・認知症について考えさせられた。病気とみるのか老化とみるのか、関わり方や接し方を考えさせられる。ディスカッションでみなさんのいろいろな経験や体験を聞いて参考になった。
- ・認知症の方の何が問題になっているのかをしっかりとらえることの大切さを学んだ。



❖アンケート結果の一部をご紹介します。

ご協力ありがとうございました。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております！